

【琴路神社神幸祭について】

神幸祭とは1年に1度だけ御祭神の神霊を御神輿にお遷しし、氏子区域内の発展の様子や人々の暮らし向きを御覧頂くと共に、普段神社にお参りできない方々にも神様へ感謝を込めてお参り頂き、更なる御加護を頂く神事で毎年11月2・3日の両日に行われます。

御神輿行列には多くの氏子の方々にご奉仕を頂きます。行列の先頭は先導とお祓いを兼ねた獅子舞と剣突が務めます。2日午後発輿祭の後出御となる御神輿は、奉仕者に担がれ鳥居を潜り行列中央部に配された台車へとお移りになります。行列は神水振・先祓を始め鉾・弓等威儀物が御神輿を挟んで続き、氏子総代・氏子区長・神社婦人部会員他が提灯を持ってお供をなし、最後尾には本年当番のお供浮立の集団が付きます。御本社を出発した行列は、納富分区にある琴路宮で仮宮祭を御奉仕し、途中休憩を挟み新町区にある新宮神社にて着輿祭の後、同神社境内にて一晩お鎮まりになります。

翌3日、昼過ぎに新宮神社にて発輿祭を行い出御となった御神輿は、前日とは違う道筋を進む事になります。行列には前日の提灯の代わりに、氏子地区名を染め抜いた幟を持ったお供が付きます。道中1度休憩を取り、夕刻には御本社へとお帰りになります。御本社前では馬が待機しており、行列が神社に近づくと後尾に付いてお供の形を取ります。御神輿が社殿に納められ馬駈神事終了後には、例大祭が執り行われます。

この神幸祭にあわせ、氏子区内の中牟田区・西牟田区では琴路神社の御分霊を奉斎した子供御輿が繰り出し、それぞれの地区内を渡御します。

また、新町区では新宮神社御神前にて子供達による獅子舞と一声浮立が奉納され、地区内を祓い清めながら演舞・演奏して廻ります。午後には移動して琴路神社の御神前にて奉納行事を行います。

【御神輿について】

琴路神社の御神輿は2基あり1基（白襷の飾り）は地元・行成区で、もう1基（赤襷の飾り）は氏子区内持ち回りで担ぐ習わしとなっています。

地元では「襷の色の違いは男の神様と女の神様の違いである」と言う事で説明されてきたようですが、人間のように男女の違いがあるわけではありません。神様の御神霊には、この世の全てを慈しみ恵み豊かで穏やかな働きをされる和魂と圧倒的な御神威によりその働きを示される荒魂という二面性があると言われていています。二基の御神輿にそれぞれの御魂をお遷しし神幸祭は執り行われます。白襷の飾りを付けた御神輿には和魂を、赤襷の飾りを付けた御神輿には荒魂をお遷ししています。荒々しい馬駈神事には、赤襷の飾りを付けた御神輿が担がれて行われます。

また、神道において御神霊や魂は、揺り動かし振る事で御利益や能力が増幅されるという考え方があります。氏子の人達は激しく揺すられ鈴の音が鳴り響く中、御神輿の下をくぐり抜ける（1往復する）事で神様の御利益を授かると言われています。神幸祭の道中至る所で人だかりができ、老若男女が御神輿を潜る様子は今も昔も変わらぬ光景と言えます。

【例大祭について】

例大祭は、1年のうちで行われる数々の祭典中で1番重要なものです。多くの神社では御鎮座日や御祭神の御縁日を当ててありますが、当社の御鎮座は「霜月の中の卯の日」（旧暦11月の2回目の卯の日）となっており、現在は11月3日に斎行しております。

神社創建当時を偲ぶと共に日頃御加護を頂いている氏神様に感謝を申し上げ、御神慮をお慰め申し上げると共に、更なる加護のもとに日本国・皇室の繁栄と安泰、氏子・崇敬者の皆様の幸福と平穏無事・地域の発展等を祈願申し上げます。

当地方では例大祭のことを通称「秋祭り」と呼ぶことがありますが、本来「秋祭り」は新嘗祭の事を言います。新嘗祭とは収穫の時期を迎え或いは終えて、一年を通しての御加護と共に本年の収穫の感謝を申し上げます祭礼です。